

第8分科会 中学校 図書館運営

テーマ 「自ら学ぶ力を育てる学校図書館 ～ 司書との協働を通して ～ 」

津幡町立津幡中学校 教諭 茶谷 明日香
かほく市立河北台中学校 教諭 畑山 裕紀

ついてゲストティーチャーとして授業に招聘した。「明治期の文化」では、ゆかりの深い作家の代表作や関わりについて紹介する形で参加し、授業後は文学全集や明治に関わる図書を社会科教室前に展示した。当時の図書資料を専門性の高い司書から提示されることで、興味をもつ生徒が増えた。「大正期の文化」「戦後日本の文化」など、授業内容に合わせて閲覧用図書を入れ替えたことで、新鮮さと即時性を生かすことができた。

1 はじめに

河北郡市の6中学校には、図書館司書が配置されている。常駐4校、週2.5日配置が2校である。学習センター、情報センターとしての図書館の役割を考えると、司書との連携が果たす部分が多い。そこで、司書の活用と教員や生徒をつなぐ活動を考え、効果的な人材活用の方法を模索した。

2 実践の概要

(1) 共通の取組

6校で情報交換を随時行い、有効と思われる活動を取り入れながら運営を行っている。図書館の利用状況の実態から、いかにして生徒と図書館をつなぐかが課題として見えている。そこで、次のような取組を継続して行っている。

- ・全学年を対象にした図書館オリエンテーションの実施（司書による説明、十進法別の図書探し）
- ・出張図書館（各学年ホールへの移動図書館）
- ・授業での利用、並行読書、資料の活用
- ・リクエスト受付
- ・朝学習時間での読み聞かせ（ボランティアサークル利用、司書）
- ・昼の放送による本紹介、貸出呼びかけ等
- ・展示図書の工夫、各教室前での常設展示
- ・調べ学習での資料準備、説明
- ・読書感想文の書き方、課題図書ブックトーク
- ・自校図書館以外からの資料取り寄せ

(2) ゲストティーチャーとしての取組

一人一台端末の利用により、生徒にとって情報を得ることがたやすくなった。利便性を実感すると共に、情報の正確性や根拠の適正さなど、図書との併用を意識する場も多くなった。そこで、図書資料の価値と、実物ならではの体感を生かす機会を設ける活動を設定した。

①社会科との連携

司書のもつ専門性を生かし、各時代の文化に

②国語科との連携

古典の学習時、文学作品のほか、時代背景の資料や古典をもとにした文学等を紹介する場で司書を招聘した。文化の影響をさまざまな視点から見ることができ、展示した資料を手取る生徒が多く見られた。

(3) 教科の連携と図書資料の充実

国語科の教科書に紹介されている図書資料を、学年ごとに分類して配架したことにより、授業で適宜紹介することが可能になった。また、授業で作成したポップを町立図書館、市立図書館に掲示し、発信した。前年度作成したポップは、自校図書館で展示している。委員会とのタイアップも有効であった。

3 今後の課題

生徒へのアプローチと共に、教職員への情報発信が図書館運営に欠かせない。図書館の活用の仕方、司書の人材活用方法の提案など、情報を提示することで活用の幅が広がる。司書と教職員をつなぎ、生徒の活動に還元することで、主体的な図書館運営がなされると考える。学校の中で、一部で使うのではなく、全員で有意義に活用できる方法を発案し、提示していくことが今後の課題である。活用するには見直しをもち、綿密な打ち合わせや振り返りも必要であるため、それらの場の設定にも関わり、より有効な図書館運営を探っていきたい。